

# 走れる芸能人に 現役ラストラン

## 林 和佳奈



# イモト二世夢へ走る

「走れる芸能人」として2020年東京五輪に関わることを夢見、異色のランナーがいる。28日午後0時10分にスタートする「第37回大阪国際女子マラソン」（産経新聞社など主催、奥村組協賛）に出場する大阪学院大4年生の林和佳奈選手（22）。タレントのイモトアヤコさんに憧れる「愛されキャラクター」で、大学卒業後は上京して新聞配達員をしながら同じ道を目指す。

（坂井明彦）

を突破した。テレビ制作の関係者からは話術などが高く評価されたが、思い悩んだ末に学業と競技を継続。その後、4年生になって再び挑戦して合格した。

①笑顔でポーズをとる林和佳奈選手。目指すは「走れる芸能人」  
②調整する林選手。新たな道に進むため、最後のマラソンに臨む  
（沢野貴信撮影）

走るきっかけを与えてくれた兄は東京箱根間往復大学駅伝（箱根駅伝）出場を夢見ているが、家計を助けるために京都府警に就職。家族の大半も芸能界入りを反対した。だが、母の敏子さん（57）が「ハングリー精神がないと前進できない」と思うよう背中を押して、決心した。

第37回

大阪国際女子マラソン

新聞配達＋養成所  
京都府出身。3つ違いの兄の影響で中学時代に陸上を始め、奈良育英高から大院大へ。身長153センチの小さな体で、一昨年10月の札幌マラソン女子ハーフの部を制した。初のフルマラソン

だった昨年1月の大阪国際は2時間42分5秒で30位と健闘。「先頭集団の走りを見て、かっこいいなと心底思いました」と振り返る。一昨年に大手芸能事務所「ワタナベエンターテインメント」が運営するタレント養成所のオーディション



大坂市 大坂市 大坂市

上京後は新聞販売店に住み込み、配達でレッスン料などを稼ぎながら2年間タレント養成所に通う。決して楽な毎日ではないが「（自分の）器を大きくで

「勇気を与える人に「チャレンジしたことが自然と笑いになったり、勇気を与えたりする」のが自らが理想とするタレント像。明るい性格で、中学生のころから「大物になりたいたい」と周囲に語ってきた。そんな夢に向かうため、今回の大阪国際で10年間の陸上競技生活に区切りをつける。大学時代最後となるマラソンは「10年間の恩返し」の思いを込めて。無心で、楽しむ」と心に決めていく。

2年後には東京五輪が控える。「リポーターなど」としてマラソンに携われる芸能人になりたい。本当に経験した人じゃないかと伝えられないことがあると思うので」と、新天地での活躍を思い描いている。

きつ」とひるまない。勇気を与える人に「チャレンジしたことが自然と笑いになったり、勇気を与えたりする」のが自らが理想とするタレント像。明るい性格で、中学生のころから「大物になりたいたい」と周囲に語ってきた。そんな夢に向かうため、今回の大阪国際で10年間の陸上競技生活に区切りをつける。大学時代最後となるマラソンは「10年間の恩返し」の思いを込めて。無心で、楽しむ」と心に決めていく。

2年後には東京五輪が控える。「リポーターなど」としてマラソンに携われる芸能人になりたい。本当に経験した人じゃないかと伝えられないことがあると思うので」と、新天地での活躍を思い描いている。